

報 告

東南アジア鉄鋼協会 (SEAISI)
—オーストラリア大会出席報告—

田 畑 新 太 郎*

1. 概 要

東南アジア鉄鋼協会の春季大会が、オーストラリアのニューキャッスルにおいて、「マーケット要因と、それが鉄鋼業の発展と地域社会に及ぼす影響について」というテーマで 1980 年 3 月 17 日より 21 日まで開催された。開催地をシドニーの北方約 170 km に位置するニューキャッスルに選んだのは、この地が 65 年前に B.H.P. (the Broken Hill Proprietary Co.) によつて最初の高炉に火入れを行つて以来オーストラリア鉄鋼業の中心地である上に、アジア鉄鋼業界への石炭の最大供給国として石炭鉱山、積出基地見学の便への配慮からであろう。大会は、東南アジア各国からは地理的不便さがあるにもかかわらず、オーストラリア国外から約 120 名、国内から約 40 名、計約 160 名 (内、夫人同伴約 20 名) もの参加者を見、B.H.P. から 20 数名を専任担当者としたことからもうかがえるように、オーストラリア国内委員会総力を挙げての歓迎ぶり、大会は非常にスムーズに、また盛会の内に終了した。

日本からの参加者は海外駐在員を含めて 17 名であ

り、事務局として安原武彦 (新日本製鉄(株)製鉄エンジニアリング事業部参与)、戸田弘元 (日本鉄鋼連盟海外調査部次長)、宮川清 (日本鉄鋼協会技術部 住友金属工業(株)より派遣中) 及び日本代表理事としての筆者が出席し、また講演者として堤洋志氏 ((株)神戸製鋼所重機械事業部プラント本部建設部課長) が参加された。

以下東南アジア鉄鋼協会について簡単にふれた上で、本大会の内容と今後の予定を報告することとする。

2. 東南アジア鉄鋼協会について

東南アジア鉄鋼協会 (South East Asia Iron and Steel Institute, SEAISI) とは既に報告したことがあるが¹⁾、開発途上国たる東南アジア鉄鋼業の発展を促進するために 1971 年 3 月エカフェの首唱のもとに発足したもので、構成は台湾、フィリピン、インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイの 6 ヶ国を正式加盟国、オーストラリア、日本を賛助加盟国として合計 8 ヶ国より成っている。そしてこの協会活動の大きな行事として、春・秋、年二回の大会があり今回で 18 回を数えている。最近の開催地とテーマの一覧を表 1 に示すが、この

表 1 SEAISI 大会テーマ一覧

開催年月	開催地	回数	テ マ
1977 年 4 月	日 本・東 京	2	Increased Productivity by Improving Supporting and Auxiliary Facilities
1977 年 9 月	タ イ	2	Selected Topics of Regional Interest Direct Reduction, Energy Conservation, Pollution Control, Foundry Practice and Products
1978 年 4 月	シンガポール	3	Modern Foundry Practice
1978 年 10 月	フィリピン	3	Raw Materials, Feed and Energy Sources for the Iron and Steel Industry
1979 年 4 月	インドネシア	3	Resources Efficiency in Iron and Steel
1979 年 9 月	台 湾	3	Rolling, Forming and Fabrication of Steel
1980 年 3 月	オーストラリア	2	Market Factors and their Effect on Steel Industry Development and Location
1980 年 9 月	シンガポール	4	Prospects for Mini-Steel Mills
1981 年 3 月	日 本・東 京	3	Productivity and Maintenance
1981 年 秋	フィリピン	4	Training, Standards and Quality Control

* 本会専務理事

大会は各テーマにもとづいての技術論文の発表が主目的であるが、見学会更にはパーティを通じ、各国各社の主要メンバー間での技術的・人的交流にも大きな意義がある。

なお、同協会の現在の事務局長には、日本国内委員会から板岡 隆氏が派遣されその発展に大いに尽力されている。

3. オーストラリア大会概要

3.1 開会挨拶および基調演説

まず New South Wales 州の Wran 首相より開会の挨拶が、オーストラリア国立大学の Bambrick 博士より "Developments in the World Steel Industry" と題し基調演説が行われた。これらに共通して言われたことは、鉄鋼業を現在育成中である発展途上国との協調を豪州は保つべきであり、これらの国への輸出増大は慎まなければならないという点であり、今後の豪州鉄鋼業の基本路線を明示したものとして注目された。

3.2 発表論文について

今回のテーマの大きな特徴は、従来の純技術的な内容に対し経済問題が含まれたことである。

論文の発表は "Market Demand and Location" と

"Demand and Development" との二つのセッションに分けて、表 2 に示す 10 論文について行われた。日本からは高い生産性を維持しているカタール製鉄所の経験を例にとつて高効率・小規模製鉄所の考え方を提示した "Small-scaled Efficient Integrated Steel Plant" を堤洋志氏が発表され、参加各国の大いに参考になる内容であつたことから非常な好評を得ていた。

3.3 見学会

見学会としては、表 3 に示すように合計 8 事業所を訪問し、更にワイン工場の見学も行われるなど、ニューキャッスルを中心にオーストラリアの特徴を十分に認識してもらいたい、という豪州側の意気込みが明確にうかがえるものであつた。若干ハードなスケジュールではあつたが、鉄鋼生産設備以外にも石炭の露天堀り (写真) や Waratah 港の石炭積出し設備等を見ることができ非常に有意義なものであつた。

4. 今後の予定

今後の開催国とテーマは表 1 の後半に示すとおりであるが、特に 1981 年春は東京で開催され、また東南アジア鉄鋼協会設立 10 周年の年でもある。従つて東京大会

表 2 発表論文一覧

分 類	No.	論 文 名	発 表 者 (所属)
Technical Session No. 1 Market Demand and Location	1	The Economics of Location in the Iron and Steel Industry	Mr. J. H. K. Brunner The Broken Hill Pty. Co. Ltd.
	2	Steel Intensity and GNP Structure in Taiwan	Mr. David C. I. Wu China Steel Co.
	3	Marketing's Contribution to Steel Industry Development and Facilities Planning	Mr. R. J. McNeilly The Broken Hill Pty. Co. Ltd.
	4	Ferrosilicon Market in Asia and Market Factors that Affects its Industry Development and Location	Mr. R. C. Salazar Maria Cristina Chemical Industries, Inc.
	5	Some Characteristics of the Steel Markets in Developing Countries and their Implications	Mr. R. J. Kuhl Kaiser Engineers International, Inc.
Technical Session No. 2 Demand and Development	1	The Development of Iron and Steel Industry in Indonesia	Mr. A. Dachlan The Metal Industries Development Center
	2	Small-scaled Efficient Integrated Steel Plant	Mr. H. Tsutsumi Kobe Steel, Ltd.
	3	The Demand for Sponge Iron in Eighties : A New Approach	Mr. P. T. Hutchison HYL Iron and Steel Technology
	4	Mini Steel Plants-Real Market Steel Production	Dr.-Ing. Peter W. Bardenheuer Korf Engineering GmbH.
	5	Minimum Economic Size of Plants for Steel Processes	Dr.-Ing. Helmut Hatzenbichler Voest-Alpine AG.

表 3 見 学 会 社 一 覧

月 日	見 学 会 社	備 考
3 月 19 日	Ravensworth Open Cut Coal Mine	写真参照
	Newcastle Steelworks, the Broken Hill Proprietary Company Ltd.	粗鋼能力 270 万 t / y 高炉 4 基, 転炉 200 t × 2 基等, プルーフミル 2 基 小型棒鋼ミル 2 基 (97 万 t / y), 棒鋼ミル (67 万 t / y) 帯鋼ミル (50 万 t / y), 帯鋼用冷圧ミル (1.8 万 t / y)
	Mill and Engineering Division, Waratah, Commonwealth Steel Co. Ltd.	B. H. P. の子会社 電炉 4 基, 高周波 2 基, DH 設備, ESR 設備 圧延設備 (プルーフミル, 小型棒鋼ミル) 鍛造設備 (最大 56 t), 鋳造設備 (最大 68 t) のほか車輪, 車軸製造設備等
	Newcastle Wiremill, Australian Wire Industries Co. Pty. Ltd.	B. H. P. の子会社 製品サイズ 22.2 φmm ~ 0.21 φmm 生産能力 4 200 t / w
3 月 21 日	Port Waratah Coal Services Ltd.	日本の会社から 30% を出資 積出能力 2 000 万 t / y 貯蔵能力 75 万 t 積込能力 2 000 t / h × 2 基
	Mayfield, Australian Industrial Refractories Ltd.	オーストラリアで最も自動化の進んだ耐火物工場
	Sulphide Corporation Pty. Ltd.	Conzinc Riotinto of Australia の子会社 主な製品と能力 垂鉛 70 000 t / y 鉛 30 000 t / y 硫酸 140 000 t / y
	Cockle Creek Wangi Power Station, the Electricity Commission of New South Wales	能力 33 万 kWh の石炭火力発電所 炭鉱のすぐ近くに位置

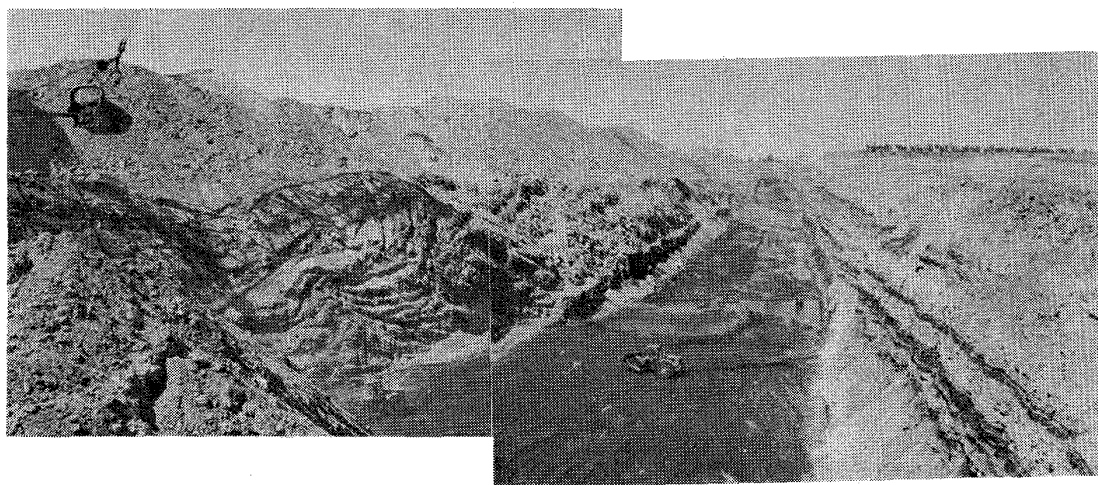


写真 Ravensworth 炭鉱の露天掘り

は、またそれにふさわしいものにしなければならない。
受け入れの日本側としては、今一つの賛助加盟国である
今回の豪州の大会も参考にしつつ、業界を上げての準備
が必要となろう。ただその場合に、今回の大会に出席し
ても感じられたことであるが、東南アジア鉄鋼協会の大

会は加盟国の発展促進のための技術援助、情報提供の場
であり、そのための人的交流には格好のチャンスである
という認識も大切になるのではないであろうか。

文 献

- 1) 田畑新太郎: 鉄と鋼, 63 (1977), p. 176